

「人生は自作自演、自分の運命は自分自身が構築するものです そして人生を楽しく生きよう」

杉尾邦江（旧姓前多） 朝陽同窓会 7回
株式会社プレック研究所代表取締役社長

第1章 エピローグ

「環境が人を育て、創造する」

私は、1936年東京は牛込に生まれた。間もなく第2次大戦が勃発、本土空襲が激しさを増すなか、5歳上の姉と2人だけで、埼玉県秩父市の城峯山麓の寒村に疎開した。荒地の急斜面に辛うじて桑が育ち、細々と養蚕が営まれていた。山で栗拾い、川で河鹿を捕り、桑の実をおやつに、ろくな食物もなく、町の小学校まで4キロの山道を走って通った。周りは豊かな薪炭林（雑木林）この自然豊かな環境が私の本性を育てた。1945年（昭和20年）8月15日、昭和天皇の終戦を告げる玉音放送のあった翌日には、姉と2人東京へすっ飛んで帰った。空襲で家は焼失、父の勤め先で唯一被災しなかった松竹東京劇場の一室に仮住まい。東京は食べ物に溢れ、東京劇場では、終戦間もなく洋画、オペラ、落語、歌舞伎等の演劇や芸能などが復活再開され、私は毎日観劇に明け暮れた。毎晩進駐軍の大型トラックに乗って松竹歌劇団の踊り子達と進駐軍の慰問に同行し、チョコレートやお菓子にありついた。其の頃歌舞伎、レビュー、バレエ、音楽、オペラ等に親しみ、文化的、芸術的素養が養われた。小学校5年生の時には東京劇場で歌舞伎十八番助六に六代目菊五郎の揚巻の禿役で子役として出演もした。

第2章 「明るく自由奔放の環境から、一転青春奈落へ」

新制中学時代は自由奔放にのびのびと育ち、高校は家から歩いて通える新宿高校に入学、それ迄とは真逆の暗い青春奈落到ち込んだ。その中で見つけた限りなく自由で、自分自身を取り戻せる環境を知る。それは「山」、「自然」。

そして、山登りの虜になる。其のころ国立公園のレンジャーという職業を発見、我が人生の進路が決まる。それまでの経験が全て自分の進むべき人生の肥やしとなった事を知る。空しいと感じる事の中から、這い上がる事が大事だ。

絶望、虚無感という奈落の底「0点」まで人は、一度は落ちる事が必要かもしれない。何が優れていて、何が駄目なのか、暗闇の中に目を凝らしてみると鈍く、輝いてみえない事が、突然光り輝いて見えて来るものだ。

第3章 大学時代（人生の進路決定、運命は自分で選択するものである）

大学卒業というよりは山岳部卒業。1年の大半は登山に明け暮れ、「生死」の限界を知る、死んでいたかもしれない危険に何度も遭遇する。

黒部川を探る事が大学時代のライフワークと成った。大学1年の夏には卒論のテーマ「黒部川の電源開発と黒部川の自然保護と開発」は決まった。

「持続可能な社会のため、自然と人間のより良い関係を探り、築く事が自分の使命である」と自覚し、そして生涯の目的、進路が決まった。

第4章 会社を興す「自分が決めた目的を実行するために生きる事は楽しい」

厚生省の国立公園部に入省、国立公園のレンジャーとして国立公園の管理、計画、自然保護に従事し、1972年に厚生省同期入省した夫と共に「自然と人間のより良い関係を作る」環境コンサルタント会社を設立した。会社は創造性に富んだ環境コンサルタントとして揺るぎない地位を確立しました。

第5章 人生を楽しく生きるための言葉（杉尾語録）

- 1 自分の運命は自分自身が選択、創造するものである。人生には4つの段階がある。
 - ① 誕生～6歳（6年間）親に養育される時代
 - ② 7歳～22歳（15年）教育、学習の時代
 - ③ 23歳～65歳（42年）自分自身の運命を自分自身が創造する時代
 - ④ 65歳～85歳（20年）人生を楽しむ時代
- 2 自分の人生を進化させるプロセスこそ面白い。
- 3 自分を極める努力をする事は楽しい。
- 4 自分の人生に常に目的、意味を与えよ。
- 5 諦めないことが大事。
- 6 人の後ろに隠れる生き方をしない、人の前に出よう。
- 7 出来るだけ豊かな経験をしよう。
- 8 好奇心を持ち感性を豊かにする事が大事。
- 9 失敗を恐れない。
- 10 生きる事に感謝しよう。

（朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）